

【事業実績】

1. ちのミュージアム・ピクニック (11月24日20人、2月22日17人、ミュージアム：茅野市尖石縄文考古館、茅野市八ヶ岳総合博物館、茅野市神長官守矢史料館、茅野市美術館、京都造形芸術大学附属康耀堂美術館、体験スポット：御射鹿池の水の行方を探るガイドツアー(御射鹿池、茅野市湖東笹原)、与助尾根遺跡、郷土料理作り体験(茅野市湖東笹原)、穴倉見学(茅野市泉野の「穴倉」)、信州のこぎり職人のお話(茅野市民館))

「八ヶ岳の恵みと人々の営み」と「凍みる冬に生きる工夫」をテーマに、分散して位置するミュージアムと、地域の文化資源のスポットをバスで巡った。参加者からは、「個人で訪れるだけでは知る事が出来ない歴史や、地元の方々の生活を知る事が出来て楽しかった」という感想があった。テーマのもとで、ミュージアムを含む地域の魅力を多角的に学び、体感することができた。

→<http://www.chinoshiminkan.jp/chino-museum/>



ちのミュージアム・ピクニック
(与助尾根遺跡)

2. ちのを編む みんなのサロン (12月14日25人、2月1日13人、2月15日33人、3月15日中止※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため 会場：ワークラボ八ヶ岳、茅野市八ヶ岳総合博物館、ゆいわーく茅野、笹原公民館)

その4～6を開催(その7は新型コロナウイルスの影響で中止。その1～3は平成30年度に開催)。「農業とIT」「市民研究員」「里山」を切り口に、地元大学の教授をはじめ、地元の皆さんの取組みを直接うかがった。地域の文化資源を知り、また活かし方を学ぶ機会にもなった。特に茅野の

「里山」については、里山整備に関わる地域の4つのグループがはじめて集まった。グループごとの縦割りになってしまうので、連携の必要性が参加者から話された。茅野の魅力をみつけてつなぐ事業とすることができた。

→<http://www.chinoshiminkan.jp/chino-museum/>



ちのを編む みんなのサロン
(ワークラボ八ヶ岳)

3. アート×コミュニケーション茅野#5 みんなでつくるアートプロジェクト (講座12月5日31人、12月11日5人、1月29日4人、3月4日1人、3月22日10人、アートツアー3月22日中止※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、イナイナイアート3月12日～22日424人 会場：茅野市民館)

はじめに「アートプロジェクトって何だろう」と題した講座を開催し、同講座を受講した希望者とともに、アートプロジェクト「イナイナイアート」をつくりあげる過程を体感する連続講座(ワークショップ)。「イナイナイアート」では公募により集まった32名の作家が、茅野市民館という公共空間の共用スペースにアート作品を展示した。講座の参加者からは「作品があることでいつもと違った空間が感じられるアートプロジェクトになった」との意見があり、鑑賞者からは「作品を探す



アート×コミュニケーション茅野#5
(茅野市民館)

のが楽しかった」という意見が多数あった。新型コロナウイルスの関係もあり、鑑賞者は少なかったが、新たな取り組みに触れることで、今後の新たな活動を生み出す事業とすることができた。

→<http://www.chinoshiminkan.jp/museum/2019/1205.html>

4. 茅野市美術館を一緒にサポートしませんか+8 (10月27日8人、11月2日8人、7日10人、16日7人、12月1日7人、8日27人、3日22人、21日7人、会場：茅野市民館内、名古屋市立美術館、茅野市立豊平小学校)

館内での座学に加え、名古屋市立美術館でのボランティア活動の見学、さらに地元小学校での対話による作品鑑賞(地元作家と美術館収蔵作品を鑑賞、茅野市美術館サポーターと学芸員が案内役)で地元小学校(児童38人、教員3人)の出張授業を行ない、その様子の公開と事後講座など、館外の実際の現場でも実施した。連続講座の受講者としては合計10人の参加者があった。他美術館や地域住民とも連携し、地域の子どもを対象とした取り組みでありながら、様々な立場の人々が交流し、学び合う機会とすることができた。受講者からは、実際の現場の声や、場に触れることができたことについての評価が高かった。茅野市の人口は約55,000人であり、その中で茅野市美術館では74人の市民サポーターが活動しているが、本事業を経て、新たに3人ものサポーターが加わり、大きな成果を得ることができた。

→<http://www.chinoshiminkan.jp/museum/2019/1027.html>



茅野市美術館を一緒にサポートしませんか+8
(茅野市立豊平小学校)